

令和7年度

自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	1	学校名	岐阜高等学校
------	---	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	県内最古の歴史と伝統を誇り、国内外の第一線で活躍する人材を数多く輩出してきた高校として 知的好奇心を高める質の高い授業と、地域や企業、大学等と連携した探究的な学びを通して グローバルな視点を持って多様な人々と協働し、地域や日本、世界を牽引するトップリーダーの育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	1 「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力をもった人材を育成する。 2 文武両道をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 3 勤労を尊び、思いやりと奉仕の心をもって社会に貢献する人材を育成する。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	・グローバルリーダーとなるための資質を備え、将来世界で活躍したり、地域の活性化に貢献したりすることができる生徒 ・「生命」を大切にできる心を持ち、他人の価値観の多様性を認め、互いを尊重できる人権意識をもった生徒 ・自己の能力や適性、興味を理解して自ら主体的に将来の進路を選択・決定する態度を持つことができる生徒	
	生徒をどう 育てるか 【C P】	・知的好奇心を喚起し、主体的な学習態度や人間性を育成するための、質の高い授業の実施 ・将来の社会貢献につながるような、幅広い分野での専門的な内容の体験プログラムの提供 ・探究的な学びや個に応じた学びを重視した適時・適切な支援	
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	・不屈でたくましい精神力を持ち、知・徳・体の調和がとれた豊かな人間性を、仲間とともに目指したいと考える生徒 ・勤労を尊び、良心や思いやり、奉仕の心をもって社会に貢献できることを、仲間とともに目指したいと考える生徒	

学校の抱える課題	・生徒一人ひとりの能力等に応じた指導の充実 ・情報モラル教育の充実 ・データサイエンスの学びを取り入れながらの探究活動の充実 ・いのちや健康を学ぶ機会の充実		
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------	--	--

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	①主体的な学習態度の育成 ②全校体制による授業参観・研究授業の活性化による授業改善	
	進路指導	①教科学力の充実と進路希望達成のための支援 ②自己理解の深化と進路選択能力の育成	
	生徒指導	①自他の命を大切にする態度と情報モラル意識の向上 ②個に応じた適時・適切な支援	
	その他	①特別活動を通じた主体性の育成と自己実現の促進 ②健康教育の推進	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	①不断の授業改善に取り組み、知的好奇心を高める授業を実施することで、主体的な学習態度を育てる。	施策Ⅱ-8	学習指導に対する生徒の肯定的評価:85%以上	学習指導に対する生徒の肯定的評価は97.3%であった。 ①授業アンケートを刷新し、年2回の公開授業月間において実施した。 ②各教科でICTを活用した研究授業を実施し、授業研究会でICT活用のあり方を検討した。タブレットを使用した授業を複数回実施している教員は100%、生徒がタブレットを使用している授業は全体の約50%であった。 ③公開授業月間中の授業参観数は一人約1.6回であった。	B	○授業アンケートの結果から学習指導については概ね好意的な評価を得られている。 ○ICTを活用した授業を実践交流することで効果的な使用方法を共有できている。 ▲生徒のタブレット使用頻度は教科間で差があり、タブレットの有効活用を前提にした授業設計は今後の課題である。	
	②ICT機器の効果的な活用を進めることで、生徒の情報活用能力を育むとともに、多様な授業形態による質の高い授業を実施する。	施策Ⅱ-9	タブレット等ICT端末を使用した授業を年に複数回実施した教員の割合:90%以上 教員相互の授業参観:1人2回以上				
	③公開授業月間、校内研修、授業研究会の実施など教職員が学び合える機会を設定し、教職員の指導力・授業力の向上を図る。	施策Ⅳ-26	学校評価アンケート、授業アンケート、生徒自身による自己評価シート、各種研修受講者数				
進路指導	①難関大対策や基礎学力講座、学習相談会などを通じて、学力の底上げと大学入学者選抜に耐えうる教科学力の充実を図る。	施策Ⅱ-8	進路指導に対する生徒の肯定的評価:85%以上	進路指導に対する生徒の肯定的評価は97.6%であった。 ①基礎講座、学習相談会を前期1回ずつ実施した。また夏季補習を中心に難関大対策を実施した。 ②グローバルリーダー養成事業の各企画を計画通り実施し、一部、保護者にも参加いただく機会を設けた。グローバルリーダー養成事業のプログラムへの参加率(全員参加のものを除く)は44.1%であった。 ③総合的な探究の時間に関し外部専門家を招き支援をいただいた。また、デジタル人材育成プログラムとして、各種講演会や研修を実施した。	B	○各年次の学習段階に合わせ、着実に学力の定着を図ることができた。 ○グローバルリーダー養成事業では、特定分野の専門家を招くだけでなく、卒業後のキャリア形成についてロールモデルとなる卒業生を招く講演会も実施できた。 ○2年次探究活動において、データサイエンス的な要素を含んだ活動を行う生徒が増加した。校外の各種大会にも参加し、上位入賞を果たした。 ▲グローバルリーダー養成事業への参加率が目標値を下回った。参加率向上に向けた一層の取組が必要である。	B
	②グローバルリーダー養成事業や各種講演会など、生徒の視野を広げ、能力や適性の理解を深めさせる取組を実施し、キャリア教育の充実を図る。	施策Ⅱ-11 施策Ⅱ-13	岐阜高校グローバルリーダー養成事業のプログラムに参加している生徒の割合:50%以上				
	③総合的な探究の時間における取組を充実させ、主体的に課題を解決する能力や資質の育成を図る。探究活動や各種プログラムにデータサイエンス的な要素を取り入れ、デジタル分野への能力・資質を養う。	施策Ⅱ-8 施策Ⅱ-9	学校評価アンケート、各種調査、外部模試の分析結果、学習状況調査の結果、活動記録への取組				
生徒指導	①命の尊さ講話や人権LHRを実施し、多様な人となりが関わる力や自他の存在を大切にする心の育成を図る。	施策Ⅰ-1 施策Ⅰ-2	生徒指導に対する生徒の肯定的評価:85%以上	生徒指導に対する生徒の肯定的評価は97.0%であった。 ①いじめアンケート以外にも二者懇談などから得られた情報を基に、いじめの認知に努め、迅速に対応した。 ②情報モラル講話を実施し、集会やHR活動を通じて、情報モラルに関する啓発を行った。なお、左記指標に対する現状は、ア. 100%イ. 98.4%である。 ③スクールカウンセリングの実施回数を増やし、相談体制を拡充させた。	A	○小さなトラブルでも積極的にいじめとして認知し、組織として対応することができた。 ▲生徒の情報モラルに関する意識は、概ね良好な水準であるが、SNS等に起因するトラブルは根絶することはできておらず、家庭等というそう連携を密にして対策を講じていく必要がある。 ○ヘルメット着用率が年々向上している。 (R5年度22%→R6年度38%→R7年度55%) ▲交通事故が増加しており(R5年度20件→R6年度31件→R7年度32件)、交通安全に関する苦情も増加している。交通安全に関わる更なる啓発活動が必要である。	
	②日常におけるモラル指導と情報技術の特性についての学習や外部講師による講話を通じて、情報端末の適切な使用とモラルの向上を図る。	施策Ⅰ-3	ア. 授業やHR活動など機会をとらえて情報モラルに係る指導をしている教員の割合:100% イ. SNS等を利用する際に個人のプライバシーや情報モラルを意識している生徒の割合:90%以上				
	③生徒面談や心のアンケート、スクールカウンセラーとの連携など教育相談活動の充実を図る。生徒のSOSのサインを見逃さず、個に応じた適時・適切な支援を行う。	施策Ⅰ-3	学校評価アンケート、いじめアンケート、迷惑調査、各講話に関する生徒アンケート				
その他	①学校行事や部活動、演劇ワークショップ等を通じて集団への帰属意識と自己充実感や達成感を育てる。生徒による自主的活動を支援し、集団生活における好ましい人間関係の構築と豊かな社会性を育む。	施策Ⅰ-1	学校行事・部活動に対する生徒の肯定的評価:85%以上	学校行事・部活動に対する肯定的評価は98.0%であった。 ①約90%の生徒が部活動に登録している。運動系、文化系部活動ともに各種大会で入賞しており、どの部も充実した活動をしてる。また、1年次生全員を対象に演劇ワークショップを実施し、仲間との関わりを深めることで非認知能力を育成し、安心して学び合える集団づくりを行った。 ②薬物乱用防止やがん教育に関して、日常の授業において計画的に指導を行うとともに、専門的な知見や実体験に基づく理解を深めるため、外部講師を招き講話を実施した。	A	○学校行事や部活動に対する生徒の満足度は非常に高い。仲間との協働を通して達成感を得る姿が多く見られ、生徒の自己成長を促す機会となっている。 ○生徒の健康に関する意識を高めることができた。生徒アンケートでは、正しい知識や最先端の医療について理解を深めることができたという回答が多く寄せられた。	
	②生徒が健康についての正しい知識を身につけ、心身の健康課題に気付き解決する力を育むため、薬物乱用防止講話やがん教育など健康教育を推進する。	施策Ⅲ-17	各講話に関する生徒アンケート				

来年度に向けての改善方策等	実施日：令和8年2月2日
【学習指導】	・生徒がタブレットを利用した授業を研究授業や公開授業として実施し、指導力・授業力の向上を図る。
【進路指導】	・グローバルリーダー養成事業の各種プログラムを一層魅力的なものとし、より多くの生徒の参加を促す。 ・高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）を活用し、データサイエンス的な要素を取り入れた学びをさらに充実させる。 ・生徒個別の高度な進路目標を実現するために、教員の進路指導に関する資質向上を図る。
【生徒指導】	・交通事故防止、マナー向上のための啓発活動の積極的な実施と青切符制度の周知活動を行う。 ・いじめを見逃さず、生徒の小さな変化に気付くため、担任、年次主任、部活動顧問と生徒指導部(教育相談係を含む)との報告、連絡、相談体制を充実させる。
【その他】	・安心して学べる場の形成を基盤に学級経営の充実を図る。その一環として演劇ワークショップを継続的に実施し、生徒の非認知能力の育成を図る。 ・引き続き生徒の健康課題に関する講話やプログラムの実施を推進していく。

学校関係者評価	実施日：令和8年2月2日
・全体として数値目標を上回る成果が示されており、高く評価できる。 ・部活動やさまざまな課外活動においても成果が表れており、生徒の努力の賜物であると同時に、その力を的確に引き出している教員の指導力によるものと評価できる。 ・ICT機器やAIを活用しつつも、それらに依存しなくても学びを進められる力を育成してほしい。 ・SNSをめぐる生徒のトラブルは、学校だけで対応できる問題ではない。安全な利用を促すためには、家庭の協力も不可欠であり、今後は家庭との連携の方法についても、より工夫を重ねていく必要がある。 ・生徒にはさまざまなメディアから多様な情報が入る時代であり、学力の向上だけでなく、人間性を育む教育が重要である。 ・4月から自転車にも青切符制度が適用される。交通事故も増えていることから、大きな事故につながらないよう、時間に余裕をもって登校する指導を含め、今後も安全面への丁寧な指導を継続してほしい。 ・プレコンセプションケアの推進に向け、生徒の健康に関する教育を引き続き充実させてほしい。高校生の段階から、自らの健康を守る知識や習慣を身につけていくことが大切である。	